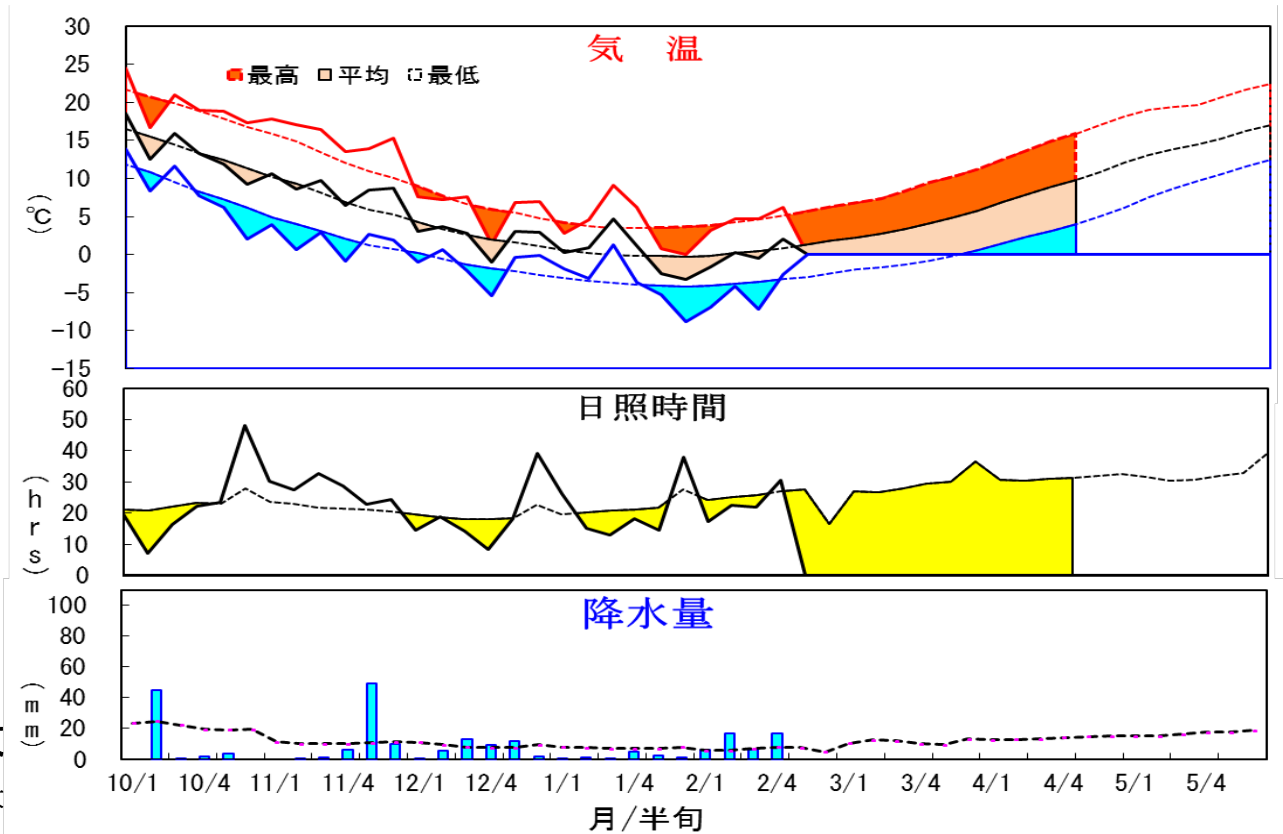


麦作情報第2号

令和5年 2月22日：JA全農みやぎ

～播種期の好天に恵まれ生育は概ね順調 春作業の準備を！～

1 これまでの気象経過



2 東

- ・東北太
- ・気温は、高い確率 50%，平年並みの確率 30%，低い確率 20%。
- ・降水量は、多い若しくは少ない確率 30%，平年並みの確率 40%。
- ・日照時間は、多い若しくは少ない確率 30%，平年並みの確率 40%。

気温、降水量、日照時間、降雪量の各階級の確率 (%)			
気温	東北地方	向こう1か月 02/18~03/17	20 (低) 30 (平) 50 (高)
		1週目 02/18~02/24	30 (低) 50 (平) 20 (高)
		2週目 02/25~03/03	10 (低) 30 (平) 60 (高)
		3~4週目 03/04~03/17	20 (低) 40 (平) 40 (高)
降水量	東北地方	向こう1か月 02/18~03/17	30 (低) 40 (平) 30 (高)
日照時間	東北地方	向こう1か月 02/18~03/17	30 (低) 40 (平) 30 (高)
降雪量	東北日本海側	向こう1か月 02/18~03/17	50 (低) 30 (平) 20 (高)

■ 低い(少ない) ■ 平年並 ■ 高い(多い)

3 宮城県の令和4年産麦類の面積・収量・等級比率等

(1) 作付面積と収量

- ・作付面積は小麦が 946ha, 大麦が 1, 323ha で, 収量は小麦が 395kg/10a, 大麦が 342kg/10a。

(2) 品質

- ・小麦の1等比率は、75.7%であった。
- ・銘柄別では、「シラネコムギ」が1等比率73%、「夏黄金」が81%と概ね良好であるが、「あおばの恋」は59%に留まった。
- ・大麦の1等比率は6.6%で、前年並みの低位に留まった。

令和4年産 麦類の面積・収量・等級比率等

区分	品 種 名	作付面積 * 2 (ha)	検査数量 * 1 (t)	収量* 3 (kg/10a)	等級数量 (t) * 1			等級比率 (%) * 1		
					1等	2等	規格外	1等	2等	規格外
小麦	あおばの恋	62	300	484	176	102	21	58.7	34.1	7.1
	銀河のちから	16	53	331	43	2	7	82.4	3.8	13.8
	シラネコムギ	437	1,616	370	1,183	246	188	73.2	15.2	11.6
	夏黄金	431	1,767	410	1,425	103	239	80.7	5.8	13.5
	小麦 計	946	3,736	395	2,827	453	455	75.7	12.1	12.2
大麦	シュンライ	439	1,394	318	104	1,084	207	7.5	77.7	14.8
	ホワイトファイバー	625	2,140	342	174	1,543	424	8.1	72.1	19.8
	ミノリムギ	259	989	382	19	663	307	1.9	67.0	31.0
	大麦 計 * 4	1,323	4,526	342	297	3,292	937	6.6	72.7	20.7

*1 令和4年産麦の農産物検査結果（令和4年10月31日現在 農林水産省11月30日公表）

*2 実播種面積（全農宮城県本部とりまとめ）

*3 検査数量/作付面積

*4 検査数量には産地品種銘柄以外の数量も含まれるため等級数量の合計と一致しない。

4 生育状況

(1) 古川農業試験場内作況試験ほ場（12月15日現在）

- ・中旬播種区の茎数は夏黄金を除いて平年を上回っており、越冬前の生育量が確保されている。
- ・下旬播種区の茎数は平年比88~107%で、越冬前の目標生育量はやや不足している。
- ・10月中旬~11月中旬は降水量が少なく、適期に播種できたところが多い。

12月15日現在の生育

	品種・区分	草丈		茎数		葉数		幼穂長	
		本年 (cm)	平年比 (%)	本年 (本/m ²)	平年比 (%)	本年 (枚)	平年差 (枚)	本年 (mm)	平年比 (%)
大麦	シュンライ 中旬	11.1	101	687	125	5.4	1.1	0.8	125
	同 下旬	7.2	101	237	88	3.1	0.2	0.2	87
	ミノリムギ 中旬	12.8	111	756	144	5.2	0.5	0.6	109
	同 下旬	8.3	107	243	90	3.2	0.3	0.3	125
小麦	シラネコムギ 中旬	12.6	105	898	204	5.3	0.4	0.2	134
	同 下旬	12.1	125	233	107	3.4	0.2	0.1	144
	夏黄金 中旬	9.9	95	308	79	5.2	0.6	0.2	106
	同 下旬	9.6	118	179	90	3.2	0.2	0.1	97

注1) 中旬播種区の平年値は、過去7か年中の最高値と最低値を除いた5か年分の平均値。

注2) 「夏黄金」の中旬播種区は平成28年播種から供試のため、平年値は過去5か年の平均値。

注3) 下旬播種区は平成29年播種から供試のため、平年値は過去5か年の平均値。

注4) 越冬前目標生育量: 葉数4~5枚、分けつ1~2本、茎数400~500本/m²。



【作況 シラネコムギ 10月19日播種】

【作況 シラネコムギ 10月31日播種】

5 今後の技術対策

(1) 排水対策

- ◆分げつ期の湿害は、生育抑制や分げつの減少につながる。
 - ・ほ場が排水不良になると、霜柱によって根が浮き上がり、麦が枯死することもある。
 - ・明渠の設置は、5m間隔で、深さは20~30cmが望ましい。
 - ・播種が遅かったり、鳥害の影響を受けて、生育が遅れているほ場では茎数不足となり、被害が大きくなるので早急に改善する。

(2) 麦踏み

- ◆効果：霜柱による根の浮き上り防止、風による土移動の軽減・防止、麦の耐寒性の強化、分げつの増加、徒長防止、など。
 - ・実施時期及び回数を目安：離乳期（3~4葉期）から茎立ち（主稈長2cm、幼穂長2mm程度）まで。越冬後の実施回数は1~2回を目安とする。
 - ・留意点：粘土質土壌では、土壌湿度が高いと逆効果になるので、土が乾いている時に実施する。

(3) 追肥

- ・融雪後は、越冬後の生育量を確保する追肥が重要になる。
- ・幼穂形成期の追肥は有効茎歩合を向上させ、穂数を確保する。幼穂長が2~3mmの時が目安で、この頃から茎立ちし、幼穂や節間の伸長が急激に進む。
- ・幼穂形成期頃の窒素栄養状態の悪化は有効茎歩合の低下を招くが、窒素を過剰に施用すると節間伸長により倒伏の原因となるので、適期・適量施用に努める。
- ・追肥時期が遅れると、効果が十分に得られないので、幼穂長を確認し適期に実施する。

追肥の種類 (生育ステージ)		株直し追肥 (融雪後)	幼穂形成期 (幼穂長2~3mm)	減数分裂期 (幼穂長30mm)	穂揃期 (8~9割が出穂)
目的		茎数の増加 葉色の回復	有効茎歩合増加 (穂数の確保)	一穂粒数の増加 登熟良化	小麦の子実タンパク質 含有率の向上
大麦	時期	2月	2月下旬~3月中旬	4月下旬	硬質麦防止のため 実施しない
	施用量		3月上旬~4月上旬	4月下旬~5月上旬	
10a当たり		窒素成分1~2kg (硫安5~10kg)	窒素成分2~2.5kg (硫安10~12kg)	窒素成分2~2.5kg (硫安10~12kg)	5月中旬
施用量			窒素成分2~2.5kg (硫安10~12kg)	窒素成分4~5kg (硫安20~25kg)	
10a当たり		窒素成分1~2kg (硫安5~10kg)	窒素成分2~2.5kg (硫安10~12kg)	窒素成分4~5kg (硫安20~25kg)	窒素成分2~2.5kg (硫安10~12kg) ※「夏黄金」は2倍
施用量			窒素成分2~2.5kg (硫安10~12kg)	窒素成分4~5kg (硫安20~25kg)	